シリーズ　OR関係雑誌の横顔（3）

確率モデル関係の雑誌

今回は，確率モデル関係の雑誌についての放談記録をご紹介します．

参加者はつぎのとおり(順不同，敬称略)．森 雅夫(茨城大)，西村彰一(東工大)，逆瀬川浩孝(統数研)，川島武(防衛大)，間瀬茂(東工大)，高橋幸雄(東北大)．

（全体のまとめ：高橋）

標準的な確率の雑誌 *J. Appl. Prob.*

A：確率モデル関係の雑誌でいちばん標準的なのは *Journal of Applied Probability* でしょうかね．

B：そう，OR関係で確率モデルをやっている人がかならず見なければならない雑誌というと，これになるんだろうね．これには，生物モデルの話，分枝過程に関連したもの，それにいわゆる確率論を応用した確率モデルなんかが多く出ますね．だから実際問題との関連は少し薄くて，どちらかというと理論的なものが多い．

C：応用的なものは *Operations Research* とか *Management Science* とかのOR専門誌に出ますからね．

D：この雑誌に出る論文は玉石混淆ですね．たとえば待ち行例に関するものでも，理論的に非常にがっちりしていて内容のあるものから，かってにモデルをでっちあげてちょこちょこって解いた感じのものまで……．つまらないモデルでも，計算らしく恰好がついてりゃいい．

review papers の多い *Adv. Appl. Prob.*

A：*J. Appl. Prob.* の兄弟分の *Advances in Applied Probability* はどうですか．

C：これは編集方針から，長い論文やreview papersがほとんどですね．

B：目新しいものは *J. Appl. Prob.* に載って，それをいくつか読んでいって，1・2年たつと *Adv.* のほうにまとまってくわしく出るという感じです．

D：これには待ち行列はあまり載らない．semi-Markov processについての何かの review といったように，もっと理論的なものが多い．

C：これに載る論文は長いので，よほど興味がないと読む気になりませんね．しかし，ほんのまれに，どうしても読まなければならないようなのが載ります．僕はI，IIで100ページ以上のものを読みました．

D：僕も Markov decision の論文でI，II，IIIで50ページのやつを読まされましたよ．

数学的な *Stoch. Proc. Appl.* と *Theory Prob. Appl.*

A：この2つと似ているのが *Stochastic Processes and Their Applications* ですね．

B：雑誌の性格としては，モデルが変わっているというよりも，いままでやられてきたようなモデルでも，数学的手法，つまりstochastic processのあつかい方が新しいものをおもに載せるという狙いがあるようですね．

今回とりあげた雑誌

雑誌名，発行者，発行頻度，創刊の年．

Journal of Applied Probability, the Applied Probability Trust, イギリス，年4回，1964年．

Advances in Applied Probability, 同上，年4回，1969年．

Stochastic Processes and Their Applications, North-Holland, オランダ，年4回，1973年．

Theory of Probability and Its Applications, the Society for Industrial and Applied Mathematics (SIAM), イギリス，(*Teoriya Veroyatnostei i ee Primeniya*, ソ連，の英訳)，年4回，1956年．

Annals of Probability, the Institute of Mathematical Statistics, アメリカ，年6回，1973年．

Journal of Multivariate Analysis, Academic Press, アメリカ，年4回，1971年．

Zeitschrift für Wahrscheinlichkeitsteorie und Verwandte Gebiete, ドイツ，年によって違う(1 Band 4冊からなり，1976年は3 Band 発行)，1962年．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

J. Appl. Prob. ならば手法的には従来のものでも，新しいモデルをわかりやすく解いたものをよく載せる．それに対して，*Stoch. Proc. Appl.* のほうは数学的手法として新しいかどうかを問題にするようです．

C：*Stoch.* のほうがむずかしいわけだね．

D：reliability なんかの，わりとおもしろいのが載っていますね．Barlow たちが書いているから．

C：馴れないせいもあるんだろうけど，活字の感じがとっつきにくい気がする．

A：そう，それに出ている論文もかなり偏っていて，かなり癖のある雑誌ですね．ソ連の雑誌の翻訳の *Theory of Probability and Its Applications* はどうですか．

C：超難解ですね．結論と定理だけで，あいだが埋まっていないから，結果を知るという意味ではいいんだけど．

B：モデルのおもしろさっていうのは，ほとんどないですよね．数学的な，とくに解析のすさまじさっていうのが目につきます．極限定理が多いですね．

A：classicなあつかい方が多いですね．それから統計も最近ずいぶん増えてきました．

D：前はBorovkovなんかがよく書いていたので見ましたが，最近はあまり見ません．これはもとの雑誌から約1年遅れて出るので，早く見たい人は原雑誌を見ればいいでしょう．私はロシア語がだめなので……

つまらなくなった *Ann. Prob.*

A：*Annals of Probability* は3年くらい前に *Annals of Mathematical Statistics*(*AMS*) が確率と統計にわかれてできた雑誌だけれど，わかれてからいわゆる確率論的な色彩が強くなって，われわれにはおもしろくなくなってしまった．前の *AMS* のほうが，いろんな論文が載っておもしろかったんだけれど，わかれてから確率と統計の中間領域に入るようなものが他の雑誌に流れちゃって．

B：Application 的なものは出なくなりましたね．

—同：*AMS* がなくなったのは惜しいですね．

C：昔は *AMS* さえ見ていればすんだのにねえ．

D：*Journal of Multivariate Analysis* は多変量解析の雑誌ですか．

C：いや，それも出るけれど，関数解析的な取りあつかいの確率論の論文が多いですね．multivariate とは書いてありますけど，一次元の単一の確率変数以外なら何でもいいという感じですね．多次元でもいいし，確率過程でもいい．

D：*Zeitschrift für Wahrscheinlichkeitsteorie und Verwandte Gebiete* という雑誌も数学的というか，関数解析的になって，私は最近だいぶご無沙汰なんですが．

C：昔は確率論やっている人がかならず見る雑誌というのが，この *Zeitschrift* と *Theory Prob. Appl.* と *AMS* でしたね．

A：そのあといろんな雑誌が出だして，Application 的なのがこの3つの雑誌から落ちていったという気がしないでもないですね．

問題を見つけるには論文集？

A：最近は勉強しないんでだめですけど，*J. Appl. Prob.* と *Stoch.* の2つを中心に見ています．あと，統計のほうになるかもしれないけど，*JRSS* (*Journal of Royal Statistical Society*)なんかですね．

B：僕はどれかといえば，*J. Appl. Prob.* を見ています．そのほかは *Ann. Prob.* なんかちらちらと．

C：私は不精だから，survey の多い *Adv.* をけっこう見ますね．

D：雑誌ではないけれど，*Berkeley Symposium* の確率統計のところには，ものすごくいい論文が出ていますね．

A：あれはいつも，問題提起のものが多いですね．

B：*Prague Conference* もありますが，これは Lény の力でしょうね．情報理論とか確率論が中心です．最近，Conference の報文集とか，いわゆる論文集がだいぶ増えてきて，その中に結構いいものが入っている．雑誌には出ないけど．

D：そういうのも見なくてはいけないとなると，ますます大変ですね．

書評者募集

下記の本が学会に届いております．書評をしてくださる方にさしあげます．

○オペレーションズ・リサーチ入門（培風館）
H. M. ワグナー著
森村英典・伊理正夫監訳
1＝線形モデル（186ページ）
鈴木誠道・長谷　彰共訳

2＝ネットワーク・モデル（133ページ）
真鍋龍太郎訳

○グラフの理論〈新しいOR〉1
A・コーフマン著　国沢清典監訳
矢部　真／久保田浩資／高田義彦／上山武郎訳
東洋経済新報社　209ページ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．